



2023 年度
第 23 号

体育市民連帯 ニュースレター

大韓民国スポーツの
根本的变化を
皆さんと共に
作って行きたいです
体育市民連帯と共に
していただけますか？

優勝した崔スンビン
学業とゴルフを
並行した選手に成長し
ロールモデルになりたい



故崔スクヒョン選手の
死去
3 周忌にあたって



スポーツ革新 4 年・・・
人権死角地帯
学校外合宿所
また子供が死んだ



金デヒョン
李ヨンハ
校内暴力裁判を
眺めながら



サッカー
続いてゴルフ界も
スポーツ界を牛耳る
中東資本



01 ゴルフ韓国 2023.06.11

優勝した崔スンビン「学業とゴルフを並行してきた選手に成長し、
ロールモデルになりたかった」

8日から11日までの4日間、慶尚南道梁山のエイワンカントリークラブ（パー71）で韓国プロゴルフ（KPGA）コリアンツアー第66回 KPGA 選手権大会（賞金総額15億ウォン）が行われた。

その結果、崔スンビンが最終日8バーディーと1ボギーで7打を減らし逆転優勝を果たした。合計14アンダー270打。

KPGA コリアンツアー初勝利の喜びを満喫した崔スンビンは優勝公式記者会見で「幼い頃、テレビ中継でしか見られなかった先輩選手たちをこの大会で見ることができた。大会期間中、KPGA 選手権大会の歴史と伝統を体で感じることもできた。そのような大会で優勝できたことが夢のようで信じられない」と感想を述べた。

崔スンビンは「17番ホールのバーディーが優勝にとって最も決定的な瞬間だった。17番ホールでバーディーに成功した後、18番ホールでもう一度チャンスを作ることができた」とし「実は今大会は他の大会と違って1ラウンドから優勝を目指して試合を行った。今大会では本当に初日から集中力を最大限発揮し、このように優勝まで成し遂げることができた」と感激した。

2001年生まれ、同い年の朴ジュンホン選手と最後まで優勝争いを繰り広げた崔スンビンは、「とりあえず自分のプレーだけに集中した。私が準備していたものだけを見せようという誓いで試合した」と話し始め「朴ジュンホン選手をはじめ金ミンギョ、趙ウヨン選手は皆友達だ。幼い頃から一緒にプレーしていた仲で、みんなよく成長したようだ」と笑った。

続いて崔スンビンは「お互いに刺激になる。みんな一緒に上手で気分がいい。（笑）朴ジュンホン選手は本当に優れた実力を持っている選手だ。ゴルフを始めた時から親しくしていた間柄だ」と付け加えた。今季平均ドライブ距離が321ヤード程度を記録した崔スンビンは「幼い頃から長打者だった。チョン・チャンミン選手と練習ラウンドを続けているが、2人とも強く打てばチョン・チャンミン選手が当然もっと遠くに出る」と話した。

昨年ツアーにデビューし、今大会前まで目立った成績を出せなかった崔スンビンは「2022年はツアー初年度だった。アマチュア時代から1部ツアーを一度も経験したことがない。序盤は雰囲気に適応するために努力し、その後は技術的な部分などで学ぶ点が多かった。それで今シーズンを控えて行われた転地トレーニングで本当にたくさん準備した」と説明した。

それと共に崔スンビンは「昨年コンフェリーツアーキュースクールにも臨み、外国選手たちと一緒にプレーしながら学ぶ点が多かった。アマチュアの時は良い成績を出すよりは多くの経験を積むためにプレーした。アマチュア時代にも目立った成績を出せなかった。しかし、その時に経験したことを今ツアーをしながら活用している」と話した。

技術的に「ショートゲームが足りなかった」と言及した崔スンビン「ティーショットの正確度も2022年に比べて大きく良くなった。特に今年のティーショットが安定したため、以前よりさらに自信を持ってプレーしている」として「今大会の場合、ティーショットはそれほど満足できなかった。しかし、2番目のショットからグリーンの上までうまく繋がった」と説明した。

「13歳でゴルフを始めた後、アマチュアゴルファーの父親からゴルフを学んだ」と話した崔スンビンは「父親がゴルフについてたくさん勉強して、私に教えてくれた。独学もたくさんした。昨年から李シウプロと一緒にやっている」と話した。

現在、成均館大学校在学中で学業とゴルフを並行している崔スンビンは「高校の時まで正規授業をすべて受けた。高校は済州大基高校を出た。学校が終わった後、訓練を始めた。両親がゴルフを始めた時から勉強とゴルフを並行するように言った。ところが周辺で「そのように並行すれば運動がうまくいかないだろう」という話もしばしば聞いた。このような話を聞きながら、そうではないことを必ず見せるという覚悟を抱いた」と答えた。

続いて崔スンビンは「勉強と運動を共にしようとする学生も多い。必ず成功して韓国でロールモデルになりたかった」と付け加えた。

崔スンビンは今季の目標について、「5年シードをもらったことは嬉しい。初勝利を成し遂げたので、これからはジェネシス大賞を目指す」と力強い抱負を明らかにした。

「優勝賞金3億ウォンはどのように活用するのか」という質問に崔スンビンは「両親が引越しを計画中だ。引越しの費用に足すつもりだ。私は現在学校のため龍仁に居住している」と答えた。

出典：<https://www.hankooki.com/news/articleView.html?idxno=83721>

02 ヘルスインニュース 2023.06.08

故崔スクヒョン選手の死去3周忌にあたって



6月26日は故崔スクヒョン選手（以下、故崔選手）が亡くなって3周忌になる日だ。自殺直前「ママ愛してる。その人たちの罪を明らかにして」と母親に送った携帯メールは、まだ国民皆に大きな衝撃と怒りとして残っている。極端な選択前に検察、警察、大韓体育会など7カ所の公共機関に自分の立場をあれほど切なく訴えたが、どこにも乗り出すところがなかったことも驚くべきことだった。もちろん、彼らは世論の猛烈な非難と非難を受けたが、故崔選手のことでいかなる問責も受けなかった。

故崔選手の死後、この3年間加害当事者である運動処方士と監督、そして先輩選手は各々懲役8年、7年、4年の重刑を宣告され、体育界人権改善のための崔スクヒョン法とスポーツ倫理センターが制定、設置された。

表面的には厳しい処罰と法、制度が確立され、体育界の弱者に対する保護と救済が改善されるように見えた。しかし、選手の人権は本当に改善されているのだろうか？ 改善を期待してもいいのだろうか？ もしそのような幻想と期待に陥っているなら、その人は明らかに純真だったり体育界の現場を全く知らないか、あるいは隠そうとする人だ。

暴行、性的暴行、飼い慣らし、学習権侵害など主に選手に対する人権侵害問題は過去数十年間繰り返されてきた慢性的な体育界問題だ。その度に専門家たちは勝利至上主義、そして予防と対応システム不在および不足、人権教育不良、温情主義、さらに指導者処遇不良などをその原因と指摘した。間違っただけではない。そのような指摘を基に、政府と体育界は本当に多くの対策と制度を作り出した。にもかかわらず、なぜ故崔選手のような悲劇が減らないのか？

故崔選手の死後2年間、国会議員室が発表した資料によると、依然として実業選手の7人に1人(13%)が暴力を経験しており、学校運動部指導者不正類型計198件中最も多い51件(26%)が選手暴力事件だった。故崔選手事件が現場には全く影響を及ぼさなかったという反証だった。これはまるで政府がこの18年間280兆ウォンをつぎ込んだが、少子化問題が改善どころかさらに悪化しているのと似ている。すなわち、根本的に解決の番地を間違えるのではないかという点だ。

体育界暴力の核心的原因として最も多く語られているのがいわゆる勝利至上主義だ。明らかに過度な側面がある。ところで故崔選手のように実業チームの選手たちが再契約する時や大学と実業チーム、プロチームから選手たちを選抜する時、どのような基準が優先されるのか？言うまでもなく試合成績だ。人性と今後の可能性、学科成績などは次の基準か、完全に無視される状況だ。実業選手が再契約を決める時や進学と実業、プロ選手選抜の時、競技力要因が最優先である厳然たる体育界環境で選手と指導者、そして父兄に勝利に過度に執着しないよう注文するのはむしろ残酷だ。運動を楽しめと、勝利よりはフェアプレーや最善を尽くすことが重要だという話は、彼らにとって贅沢すぎる言葉だ。競技力がハイクラスに上がったり、競技力によって人生が決まる状況でなければ、強要しなくても誰もが試合を楽しむことになる。一般生徒の場合、生徒自身や教師、保護者にとって生徒の性格や体力はひとまず後回しだ。今後、学生の未来のために彼らが学科成績にすべてのエネルギーを注ぎ込むように、選手のうち5~10%だけが実業、プロチームに進出するこの熾烈な現実で生き残るために選手、指導者、そして保護者が勝利に執着するしかない構造を決して見逃してはならない。そうせざるを得ない体育界の環境を果敢に改善しなければならない。

では、繰り返される体育界の人権侵害を根絶するために、どのように環境を改善するか？もちろん、現在のように体育界の様々な人権、倫理センターがもう少しまともに作動しなければならない。予防機能をもっと少し先制的に強化しなければならない。福祉不働や無能、不正な管理は必ず問責しなければならない。指導者教育も続けなければならない、選手たちに対する学校教育は絶対に疎かにしてはならない。そして、選手を対象にした多様な進路教育はいくら強調しても十分だ。

また、運動選手選抜のための現在の大学入試選考は必ず前向きに改善されなければならない。このようなすべての努力と共に実業チームの選手たちが故崔選手死亡事件を契機に真のアマチュア選手として定着するようにしてほしい。

一日中運動する選手たちはプロ選手たちだ。いや、彼らも毎日一日中運動しない。それでも実業選手の80%程度を占める地方自治体や公企業所属の選手たちは、ほぼ毎朝から夕方遅くまで運動する。多様な大会を準備する側面もあるが、全国体育大会に選手たちを過度に追い込むためだ。

究極的には全国体育大会のために自治体所属の選手と指導者が存在し、全国体育大会が韓国体育発展の礎であることは間違いないが、所属選手と指導者に加える圧迫は決して侮れない。1980年代初め、プロ野球とプロサッカーが誕生するまで実業チームの選手たちは午前には事務所で勤務し、午後に練習した。そして彼らは引退後、希望すれば皆会社に残った。このような風土を作り直さなければならない。

実業チームで選手と指導者を選抜する際、少なくとも3年無期職の正規職として採用し、引退や深刻な負傷で選手、指導者職を遂行できない場合、午前に勤めていた部署に戻って一般社員と同様に一定定年を終える勤務循環構造が定着しなければならない。これからは実業選手と指導者たちが全国体育大会のための流れ者ではなく、地方自治体と企業の正常な構成員にならなければならない。

もちろん採用時、選手と指導者の選択により現在のように給料をもう少しもらって1年契約職に行くか、あるいは一般公務員水準で給料を少し少なく受け取って正規職に行くツートラックを並行することも考慮できる。決して容易なことではないが、自治体と企業がどうせすべての選手と指導者に給料を支給しているだけに、体育界と自治体が真剣に膝を突き合わせてみるべきだ。

すでに施行している一部地方教育庁で見られるように、学校運動部指導者の場合も全員正規職への転換が早く進行されるのが未来指向的だ。一生会社員として選手と指導者に安定した職位を与えることであり、崔選手の悲劇を繰り返さない非常に根本的なもう一つのアプローチになるだろう。3周忌を迎え、再び故崔・スクヒョン選手の冥福を祈る。

(文:カン・シンウク檀国大学校名誉教授)

出典：<http://www.healthinnews.co.kr/news/articleView.html?idxno=38171>

03 ニュース打破 2023.06.09

スポーツ革新4年・・・人権死角地帯「学校外合宿所」、また子供が死んだ



2019年スポーツミートゥー事件、2020年故崔スクヒョン事件。人権侵害と暴力というスポーツ界の長年の病態が水面上に浮上した。当時、政府とスポーツ界は再発防止を約束し、いわゆる「メダルより人権」というスローガンの下、一連のスポーツ革新政策を推進した。その後4年、変化の道しるべと現場の乖

離は依然として遠い。政策の動力は弱まり、スポーツ現場の随所では逆行まで感知される。革新が右往左往する間、誰よりも脆弱な人権状況に置かれている幼少年スポーツ選手たちが管理監督の死角地帯で苦しんでいる。 - 編集者注

昨年4月、金浦FC18歳以下のチーム所属選手チョン某君が金浦市馬山洞所在の合宿所4階で自ら命を絶った。チョン君が最後に残したSNS文にはコーチ陣の情緒的な虐待、同僚選手のいじめを告発する内容が含まれていた。スポーツ倫理センターはこの内容をもとに8ヵ月間調査を行い、実際にチョン君に対する人権侵害があったことを確認した。また、今年1月に審議委員会を開催して金浦FCコーチ陣3人、中学時代の監督1人、中学時代にいじめを加えた同僚選手1人など計5人の関連者に対する懲戒を大韓体育会側に要請した。

スポーツ倫理センター審議委員会は決定文を通じて、チョン君の死の裏に常時合宿問題があると言及した。合宿生活の途中にあった食事時間規律、携帯電話使用制限、剃髪などの罰則が身体の自由とプライバシーを制限した基本権侵害だと見た。常時合宿は指導者と先輩後輩の間の規律が昼夜を問わず作動するという点で、長い間スポーツ界暴力の根源の一つと指摘された。

合宿所内いじめ、子供は一人で耐えた

チョン君は済州島で育った。中学校1年生になった時、サッカー選手になるという夢を抱いて京畿道華城市の幼少年サッカーチームに合流した。平日には華城で合宿生活をしながらサッカーチームで練習をし、週末には済州島の実家や京畿道にある親戚の家で休息を取った。

合宿生活はチョン君に深い傷を残した。中学校2年生の時、一緒に生活した同僚選手の金某君のいじめが1年近く続いたためだ。金君はチョン君に自分が食べた食器を片付けさせ、歯磨きする時は歯磨き粉を絞らせた。牛乳おやつのお使いをさせたりもした。配膳を手伝っていたところ、この場面を目撃したある保護者が見かねて、監督に抗議するほどだった。

しかし、チョン君はこのような同僚選手のいじめについて生前両親に知らせなかった。チーム指導者たちは幼いチョン君に合宿所内の問題は合宿所内で解決しなければならないと話してきた。

「(子供が中学3年生の時) そうでした。Aという子が後輩を殴ったのに、チームで加害生徒に何か言ったのではなく、被害生徒に何か言ったということです。こんなことがあつたら絶対両親に話してはならず、コーチ、監督に話さなければならない。そのため、我々は自主的にここで解決しなければならない」

幼少年サッカー選手故チョン〇〇君の父

保護者の抗議を受けても、チーム監督は加害者の金君に軽い警告措置で事件をもみ消した。金君は年齢別国家代表チームに選ばれるほど実力が優れた選手だった。チョン君が亡くなった後、スポーツ倫理委員会の調査過程で監督は合宿施設内いじめ問題に対する一部保護者の抗議があったという事実を認めた。しかし、状況の深刻さを十分に知らなかった」と抗弁した。父兄たちの考えは違う。大人の差別が生んだ不条理だった。

「監督が全面的に持ち上げている子に誰も触れることはできないでしょう。(中略)他の選手はその10分の1だけ行儀の悪い行動が出ても子供たちは死にます」

チョン君の幼少年チーム保護者

チョン君は同僚選手約30人と一緒に合宿所から車で20分の距離にある中学校に通った。合宿所のことだとしても厳然と学生間いじめだった。学校とチームは別個とは言えないほど密接な関係だった。チームは毎日大型バスで生徒たちを学校まで乗せて運び、学校はチームが新入生歓迎会や卒業生歓送式のような行事を開催する時には空間を空けてくれた。学校に所属する男子生徒3人に1人の割合で同チームの選手だった。幼少年チームの指導者たちが選手たちの保護者の役割をしながら学校と疎通した。しかし、学校はチョン君を保護できなかった。

学校はサッカーチームの合宿所で起こった問題に沈黙した。事件を知らなかったわけではない。幼少年チームのある保護者は、サッカーチームで起きたいじめ事件を学校側に知らせた。彼は学校暴力対策審議委員会を開いてほしいと要請したが、学校が黙殺したとスポーツ倫理センターに陳述した。

学校は取材陣に保護者から校内暴力委員会の開催を要求された事実はないとし、保護者の供述内容を否認した。あくまでも学校の外で起きたことなので、サッカーチームの合宿所で起きた事件を調査したり監督することができない立場だ」と話した。チョン君がこの世を去った今も、学校は同じ立場だ。

「そうですね、合宿所があるか分かりませんが、これは学校の運動部ではなく、私たちの管轄ではないので、どうすればいいかやそのような権限や義務はないと私は知っています。（中略）ただ近くのテニスクラブでテニスをする選手もテコンドー塾でテコンドーをする選手も同じ状況だということ。」

チョン君が通っていた中学校関係者

24 時間続いた統制、「明日が怖い」

チョン君の苦痛は高校入学後も続いた。チョン君は中学校卒業後、Kリーグ 2 所属の金浦 FC18 歳以下のチームに合流した。今回も合宿生活が続いた。合宿所というが、実際はよく見られる一般多世帯建物だ。

コーチ陣はこの合宿所で 24 時間選手たちと生活しながら選手たちを統制した。選手全員が 2 週間に 1 回だけ出席すればいい放送通信高校に学籍を置いたため、コーチたちと一緒にする物理的な時間は中学生の時よりさらに増えた。

問題はコーチ陣が一定の基準なしに学生選手たちを日常的に統制したということだ。チョン君は雨の日に傘をささなかったという理由で頭を剃髪しなければならなかった。食事中に携帯電話を見たという理由で携帯電話を奪われ、訓練中にも悪口を言われることが繰り返された。自分の行動がチーム全員に被害を与えるという考えで心理的な圧迫を感じたりもした。

「(前に一度は) ご飯を食べながら携帯を見たようです。ところで、計 24 人の子供のうち、私たちの子供が携帯電話を見たことを持って 23 人全体の子供まで 24 人の携帯電話を一週間押収しました。それでこれはみせしめ式、それでこの子はその 23 人の子供たちにどれだけ痛い顔付きと嫉みと憎しみを受けたでしょうか」

幼少年サッカー選手 故チョン〇〇君の父

チョン君が極端な選択をした日、ユン某コーチは酒に酔って顔が赤くなった状態だった。ユンコーチは携帯電話を使ったという理由でチョン君に過激な言葉を吐き出した。明け方の運動と観客席掃除を罰則として指示し、チョン君が頭の傷跡のために特に敬遠していた強制剃髪罰則も下した。チョン君と同じ部屋を使っていた同僚選手は、スポーツ倫理センターに「翌日予定されている体罰のため、チョン君は心理的に大変だっただろう」と供述した。

その夜、チョン君は自らこの世を去った。チョン君は SNS に次のような言葉を最後に残した。「サッカーをせず、一般学生だったら、これより幸せだったろうか。」「明日が怖い」「いつかは起こることだった」「いつも危なくて不安だった。」

4 年前、すでに「合宿全面禁止」宣言…有名無実のスポーツ革新

また子供が死んだ。チョン君が合宿所で体験したいじめ被害とコーチ陣の人権侵害は予想されたも同然だったという指摘が出ている。

合宿所は長い間、運動部暴力の根源と評価されてきた。指導者が 24 時間選手たちを統制でき、先輩が閉鎖的な空間で同僚選手を苦しめる構造的な環境が用意されるためだ。国家人権委員会は 2019 年運動部合宿所全般を調査し、このような事実を再度確認した。平日携帯電話押収、異性交際時の剃髪罰則、シャンプーの蛇口一方向に整理、官等姓名叫び（訳注：亡者の官等姓名、すなわち〇〇道〇〇郡〇〇面〇〇里〇

〇〇、姓名を呼び、最後に「福、福、福」3回叫び服を屋根に投げるなど)、剃髪強要、先輩たちの洗濯強要など深刻な人権侵害事例が報告された。

政府当局は合宿所に内在する人権侵害問題を解決するために長い時間を費やした。教育部は2013年に制定された学校体育振興法を土台に学校運動部合宿所を規制している。校長に責任を付与して運動部の常時合宿を根絶するようにし、家が遠距離の学生のための寮だけを運営できるように規定した。寮運営の際にも学校側が指導者ではない人員に寮管理を任せ、学生選手が休む時は休めるようにしなければならない。

体育界の構造革新を目標に2019年に発足した官民合同スポーツ革新委員会も教育当局の指針に歩調を合わせて合宿所を全面廃止することを勧告した。スポーツ革新委は、合宿所は運動機能の向上を唯一の目標に、学生選手たちを日常的に統制する空間であるため、暴力的な環境が造成される可能性が高いと見た。当時、学校の運動部10カ所のうち4カ所が合宿所を運営していた。李ヨンススポーツ革新委員は勧告文を発表し、「合宿所が教育当局の方針通り、別途の司監先生を配置した寮に転換しなければならない」と述べた。家が遠い学生たちにきちんとした休息空間を与えなければならないという意味からだ。

しかし、教育当局の規制とは異なり、チョン君は選手生活の間ずっと常時合宿をしながらコーチ陣と一緒に生活した。その過程でいじめと人権侵害に合った。当局の規制に弱点があったからだ。学生運動部は大きく二つの分類に分けられる。学校の運動部と学校外の運動部だ。学校の運動部は教育省によって管理されている。常時合宿、コーチ陣の合宿所統制は原則的に禁止されている。合宿をしても学校の管理・監督の下にある。問題は学校外の運動部だ。学校外の運動部は管理・監督主体が曖昧だ。

そのため、いざ常時合宿中に問題が発生しても人権保護のために乗り出すところがない。チョン君が通学していた中学校は全校男子生徒3人に1人が所属しているほど密接な関係を結んでいるが、サッカーチームの合宿所で発生した問題には関与しなかった。学校の外で起きた問題であるため、調査をしたり監督する権限がないという理由だった。

金浦FCは幼少年選手たちの合宿施設を運営しながらも、いざ教育当局が立てた指針から外れていた。京畿道教育庁は常時合宿施設を運営する場合、コーチ陣ではなく別途の専任管理者を置くようにしており、管理者と学生は相互尊重の中で生活するようにしている。訓育と罰則もコーチ陣、管理者が任意に指示するのではなく、あくまで教育的な方式によって行うよう勧告している。しかし、このような指針は学校外の運動部である金浦FC合宿施設には該当事項がなかった。金浦FC側は合宿施設の運営自体について金浦市当局に報告するだけで、別途の合宿施設運営規定や幼少年選手訓育基準を持っていないと明らかにした。

問題はこのような死角地帯に属している学校外の運動部がますます増えているという点だ。取材陣が大韓サッカー協会のチーム登録現況を調べたところ、この5年間で学校サッカー部が166個減った間、学校外サッカー部（クラブチーム）は250個増えた。教育部は学校外の運動部が合宿所をどれだけ運営しているのかさえ把握できていない状態だ。やはり管理・監督できる権限がないという理由だ。

学校外の運動部は既存の学校運動部より常時合宿施設を利用する比重が高い。2019年、ファン・デホ京畿道議員が指導者協会を通じて自主調査したところによると、京畿道所属の学校外サッカー部・野球部140チームのうち90%ほどが合宿所を運営していることが分かった。国家人権委の調査によれば、同年学校運動部で合宿所を運営するケースは10チーム中4チームの割合だった。

「学校外の運動部、教育部が管理・監督しなければならない」

状況がこうなので現場では学校外の運動部に対する管理・監督を教育部が引き受けなければならないという声が出ている。サッカー選手保護者連合会のチョン・ウンソ代表は、学校外の運動部であっても同じチーム所属なら同じ学校に通学する現場の慣行があるため、「学校に責任を負わせることができる」と話した。国家人権委員会スポーツ人権特別調査団もやはり 2021 年 4 月、学校外の運動部に対する管理・監督を教育部が引き受けられるよう塾法を改正しろと勧告した。だが、教育部はすでに施行中の体育施設法でも学校外運動部の合宿施設管理・監督が可能だとし勧告を受け入れなかった。勧告当時、スポーツ人権特別団長だった金賢洙（キム・ヒョンス）前団長は取材陣にこのように話した。

「体育施設法には体育教師を管理・監督する根拠がなく、教育部の主張は説得力が劣ると見ました。塾法がすでに知識、技術、芸能、個人教習などを管理・監督しているんですよ。その対象に体育だけ追加していただければ、十分に管理できます。勧告を拒否することについて（人権委内部では）理解できないという意見がありました」

金ヒョンス元国家人権委員会スポーツ人権特別調査団長

出典：<https://newstapa.org/article/LHYJu>

04 日刊スポーツ 2023.06.07

金デヒョン、李ヨンハ校内暴力裁判を眺めながら



斗山ベアーズの李ヨンハ（26）は先月 31 日、ソウル西部地裁で特殊暴行、強要、恐喝の疑いで起訴された事件に対して無罪を言い渡された。

これに先立ち、李ヨンハと LG ツインズの金デヒョン（26）は善隣インターネット高校在学中、後輩に対して学校暴力を振るったという内容で捜査を受け、起訴され裁判を受けた。起訴当時、軍人だった金デヒョンは今年 1 月、第 1 地域軍事裁判所で容疑を立証する証拠が十分でないという趣旨で無罪を言い渡された。李ヨンハも同じ理由だった。検察は 5 日、事実誤認および法理誤解を主張し控訴状を提出した。

この事件は金デヒョンと李ヨンハの高校野球部後輩がスポーツ倫理センターに、過去に彼らから校内暴力にあったという通報をし、これを受け付けたスポーツ倫理センターが検討後捜査を依頼して始まった。続いて警察と検察を経て起訴され、刑事裁判に至った。起訴当時、両選手は容疑を強く否認した。また、警察が検察に送致してから 2 週間後に起訴されたことに対して、公訴時効を意識して起訴したものだとして評価した。

両選手の弁護人は無罪が宣告された後、スポーツ倫理センターで事件がうまく濾過されない状態で捜査機関に依頼したこと、警察が負担を感じてまともに捜査せずに検察に送致したこと、公訴時効が迫って検察が選手に対する調査をしなかったことを指摘した。

報道に公開された判決内容と弁護人側のインタビューを見て「申告内容に対する日時・場所と関係者の現場不在など基本的な内容に対してももう少し細かく調査および捜査をしていたらどうだっただろうか」と考えた。弁護人側のインタビューも申告者・スポーツ倫理センター・捜査機関に対する不満を吐露するというより、事件に対する残念さを表現したものと見られる。それなら、このような残念さを改善する案は何があるだろうか。

まず、スポーツ倫理センターの専門性確保が必要だ。国民体育振興法は体育の公正性確保と体育人の人権保護のためにスポーツ倫理センターを設立するよう定め、2020年8月スポーツ倫理センターが発足した。スポーツ倫理センターは体育界の人権侵害および不正に対する申告を受け付けて調査し、申告者および被害者を支援する。また、体育現場の人権侵害を調査し、体育界の人権侵害および不正を防止し予防するなどの業務も担当する。さらに、調査を通じて容疑があると判断すれば、捜査機関に告発したり、文化体育部長官に懲戒を要求できるほど相当な権限と地位を持っている。

問題はスポーツ倫理センターがこのような役割をきちんと遂行できるかどうかだ。国民体育振興法により体育界人権侵害および不正などに対する相談・申告がスポーツ倫理センターに集中するだけに、これを担当する専門家と設備が必要だ。特に被害者などが直ちに捜査機関に申告しない場合、スポーツ倫理センターが事件初期に介入する唯一の場所になりうるだけにそうだ。学界と実務者がスポーツ倫理センターに特別司法警察官の必要性を主張してきたことも考慮に値する。

捜査機関の徹底した捜査も必要だ。特にスポーツ倫理センターのように他の機関で調査した内容に対する捜査が依頼される場合、ややもすると調査方向が間違っていたり脱落する恐れがある。捜査は密行性と迅速性が重要だが、すでに関連者が初期調査を受けて疑惑を隠したり否認できるだけに、告発内容に対する正確な資料確認と捜査が重要だ。

正確で迅速な調査および捜査と判断は、申告者と被申告者の両方に重要だ。実際に人権侵害と不正があれば、これを正して被害を回復し、そのようなことがなければ早く容疑から脱することができる。どちらもスポーツ倫理センターと捜査機関の役割だと考えているからだ。

出典：<https://isplus.com/article/view/isp202306060094>

05 ニューシス 2023.06.08

サッカー、続いてゴルフ界も……スポーツ界を牛耳る中東資本



オイルマネーがスポーツ界への影響力をますます拡大している。サッカー界に続きゴルフ界まで勢力図を変え、中東の影響力はさらに高まっている。

サウジアラビアプロサッカーは今年1月、ポルトガルのサッカースタークリスティアーノ・ロナウド（アルナスル）に続き、フランス出身の世界的なゴールゲッターであるカリム・ベンゼマまで獲得した。

アールイーティハドは7日（韓国時間）、球団公式チャンネルを通じてベンゼマと3年契約を結んだと発表した。

ベンゼマは昨年、世界最高の選手に与えられるバロンドールを受賞した名実共にワールドクラスのFWだ。1987年生まれで30代後半に向かう少なくとも年齢にもかかわらず、2022-2023シーズンスペインプロサッカープリメーラリーグで19ゴールで得点ランキング2位を占めた。

ベンゼマは09年から14年間、世界最高クラブのレアル・マドリード不動のストライカーとして活躍してきた。先月までは再契約が有力だったが、巨額のオイルマネーを提示したアールイーティハドの提案に行き先を中東に変えた。

アルティハドがベンゼマに提示した年俸はなんと 2 億ユーロ（約 2781 億ウォン）と推定される。レアル・マドリードでも 330 億ウォンの年俸を受け取ったが、アルティハドが 9 年分の年俸を一度に提示し、心が揺れた。

サッカー界の「サウジ特需」はこれだけではない。

2030 年国際サッカー連盟（FIFA）ワールドカップ開催に挑戦するサウジは最近、2027 アジアサッカー連盟（AFC）アジアカップに続き、2023 FIFA クラブワールドカップ開催権を獲得した。また、2026 年女子アジアカップ誘致も推進中だ。

サウジはロナウド、ベンゼマを皮切りにスター選手を引き続き流入させる計画だ。最近ではサウジが来年、孫興民（ソン・フンミン、トッテナム）の迎え入れを目標にしているという報道まで出た。

また、サウジ政府系ファンド(PIF)が主導するコンソーシアムは 2021 年 3 億ポンド(約 4856 億ウォン)でプレミアリーグ(EPL)ニューカッスルユナイテッドの持分 80%を買収したりもした。

オイルマネーを背にしたニューカッスルは 2021-2022 シーズン 11 位から 2022-2023 シーズン 4 位に順位を引き上げた。

サッカーに続き、ゴルフ界もオイルマネーに白旗を掲げている。

PIF が後援する LIV ゴルフシリーズを非難してきた米プロゴルフ(PGA)ツアーも最近、結局合併を決めた。

PGA はツアー所属の主要選手を LIV ゴルフが連れて行くと、PGA ツアーで LIV に渡った選手たちの大会出場を禁止するなど強硬な態度を見せてきた。

しかし、今回の合意で PGA ツアーと LIV ゴルフは仇敵から同業者に変身した。

一部では米国とサウジアラビア間の政治的な要因が介入した結果という見方も出ている中で、LIV ゴルフの物量攻勢に PGA ツアーが適当な解決策を見つけられなかったのも今回の合併の主な原因になったという分析だ。

人権弾圧国のイメージを洗い流すための「スポーツウォッシング」という批判の声もあるが、天文学的な資本を前面に押し出したサウジに背を向けるのは難しいのが現実だ。

サウジは昨年、隣国のカタールがあらゆる非難にもかかわらず、2022 カタール W 杯を成功裏に開催したのを見守りながら、競争的に影響力を拡大している様子だ。莫大な資金力を備えたオイルマネーにスポーツ界の地殻変動が起きている状況だ。

出典：https://newsis.com/view/?id=NISX20230608_0002331299&cID=10501&pID=10500

06 週間スポーツニュース

障害者・非障害者和合の場、第 2 回全国オウリム生活体育大祝典修了

<https://isplus.com/article/view/isp202306120091>

京東大学、楊州メトロポールキャンパス「庁舎総合体育館」起工

https://newsis.com/view/?id=NISX20230612_0002335796&cID=14001&pID=14000

東城製薬、道峰区体育会と「道峰マラソン大会」の修了

<http://www.100ssd.co.kr/news/articleView.html?idxno=99544>

金堤サラン奨学財団、体育夢の木激励金支給規模拡大

<http://www.domin.co.kr/news/articleView.html?idxno=1428218>

体育公団スポーツ政策科学院、ETRI と連合フォーラム開催

<http://www.sportsworldi.com/newsView/20230613508047>

蔚珍郡体育会、慶尚北道民体育会「補助金流用」疑惑

<https://news.tf.co.kr/read/national/2023597.htm>

生活体育オリンピック「アジア太平洋マスターズ」、数億ウォンをかけて選手募集

<https://www.nocutnews.co.kr/news/5957893>

国民体育振興公団、スポーツ実務オーダーメイド教育「就職・創業プログラム」を実施

<http://www.stoo.com/article.php?aid=87585147671>

「スポーツ人権・認識改善」ソウル市障害者体育会、障害者生活体育指導者力量強化教育修了

<https://www.sportsseoul.com/news/read/1320038?ref=naver>

体育市民連帯オンライン 定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。

私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と
福祉実現のために努力しています。
皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための
体育市民連帯活動に強固な土台となります。
体育市民連帯会員として力になろうと
される方は下の口座に後援お願いします。

国民銀行 086601-04-095940

口座名義：体育市民連帯

オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。

多くの関心をお願いします。

INFOMATION

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳：佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fep@gmail.com

週刊ニュースレターバックナンバー（資料室） <http://www.yg.jpn.org/sportscm/index.html>